

諫早市教育委員会委託事業
「イングリッシュキャンプ」
～野外であそびながら英語を学ぼう～

令和3年10月2日（土）

【担当：和泉 志帆・望月 聡・大嶋 和幸】



(1) 事業の背景

新小学校学習指導要領（平成29年3月告示）において、中学年に外国語活動、高学年に外国語科が導入されました。外国語活動の目標1-(1)には、「外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする」と明記され、外国語活動での体験学習の重要性が示されています。また、当機構の令和3年度教育事業等方針においても、青少年に係わる国の政策課題として、異文化理解の増進を図ることが取り上げられています。

本所では、平成30年度から諫早市教育委員会の委託を受け、小学校中学年を対象として、1泊2日のイングリッシュキャンプを実施してきました。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、日帰りで実施しました。

(2) 事業の趣旨

自然の中で、英語を聞いたり話したりする活動を通して、外国人との交流や英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させる。

(3) 目標

- ① 英語を用いて、主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知る。
- ② 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付く。

(4) 対象

諫早市内の小学3～4年生

(5) 事業の実施

① 期日

令和3年10月2日（土）

② 参加者

諫早市内全28校のうち10校から29名が参加

	男	女	計
3年生	9	13	21
4年生	4	3	8
合計	13	16	29

③ 外部講師・補助スタッフ等

外部講師：諫早市の ALT 5名（運営協力：諫早市教育委員会学校教育課 6名）

補助スタッフ：鎮西学院大学 現代社会学部外国語学科学生 6名

④ 日程

時間	内容
9:00	受付
9:15	始まりの会、仲良くなるゲーム ・アイスブレイク、自己紹介ゲーム等
10:30	英語を用いた活動 ・色や形をさがそう
12:00	昼食（レストラン）
13:00	葉っぱのスタンプ ・オリジナルエコバッグを作ろう
14:30	振り返り、終わりの会
15:00	解散

⑤ 活動の様子



【始まりの会・仲良くなるゲーム】

出会いの時間です。はじめは緊張した表情でしたが、英語で「じゃんけん」と「自己紹介」をし、交流を深めていきました。子供たちの目標は、「色や形を英語で表現すること」です。ゲームを通して、「red」「blue」「circle」「triangle」等、色や形の英語表現を学びながら活動しました。



【英語を用いた活動】

当日は天候に恵まれ、ALT や諫早市教育委員会の先生方、鎮西学院大学の学生たちと一緒に屋外でビンゴゲームを行いました。自然の中を散策しながら、様々な色や形を探します。子供たちは、求める色や形を見付けると、その形を英語で表現しながら、仲間と喜びを分かち合っていました。



【葉っぱのスタンプ】

自然の中から集めてきた葉っぱなどの自然物を使用し、エコバッグにスタンプをしました。子供たちはこれまでの活動で学んだ色や形の英語を使いながら、オリジナルの作品を作り上げました。



【振り返り・終わりの会】

お別れの時間です。最後に、葉っぱのスタンプで使った色を英語で表現しながら作品の発表会をしました。一緒に活動した ALT、諫早市教育委員会の先生方、スタッフの見送りの中、子供たちは笑顔で帰宅の途につきました。

(6) 評価

① アンケート結果（キャンプ全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
90%	10%	0%	0%

② 参加者の声

- ・できるだけ英語を話しました。少し難しかったけど、楽しかったです。
- ・いろいろな物を英語で言うのは難しかったけど、とても楽しく思えた。
- ・英語がもっと話せるようになった。友達と話すことがたくさんできた。
- ・英語で名前や好きな食べ物を言うことを頑張った。
- ・英語はいろいろな人とふれあえるから、もっと英語を勉強したい。
- ・もっと英語を覚えたい、話したい。
- ・形の英語を言って、形を（ロープで）作ることが難しかったけど、みんなの力をあわせて頑張りました。

(7) 成果と課題

① 成果

当所は本事業の委託元である諫早市教育委員会から助言をもらい、小学3・4年生の英語教科・領域に関連付けた活動を企画し、実施することができました。

子供たちに、外国人との交流や、ネイティブな英語表現を体験してもらうために、今年度は鎮西学院大学現代社会学部外国語学科に依頼し、留学生や英語を勉強している大学生6名の協力を得ることができました。大学生たちはALTと一緒に、班活動をサポートしました。子供たちは英語でじゃんけんをしたり、外国の挨拶に触れたりすることで、楽しみながら自然に英語を話すことができました。

活動中、英語を使って色や形を表現することや、分からないことがあれば尋ねるなど、積極的に英語を使おうとする子供たちの姿が多くみられたことから、目標を達成することができたと考えます。

② 課題

今年度は日帰り1日での実施であったため、英語活動の時間を十分に確保できませんでした。英語に慣れ親しむという点では、日常生活の中で英語を活用し、身近に体感してほしいので、1拍2日が望ましいと考えます。

今後、宿泊で企画する場合、ALTの勤務時間の制限があるため、2日間の帯同は難しく、外国人の確保が課題だと考えております。

③ 今後の展望

今年度は、大学生が子供たちのサポートをしました。今後は、法人ボランティアの登録を促し、企画段階から事業運営に参画し、主体的に子供たちに関われるように支援したいと思います。

また、十分な英語活動を提供するために、大学生のみならず市内在住の外国人や、英語教室などの職種の協力を仰ぐなど、外国人の確保を考えていきたいです。